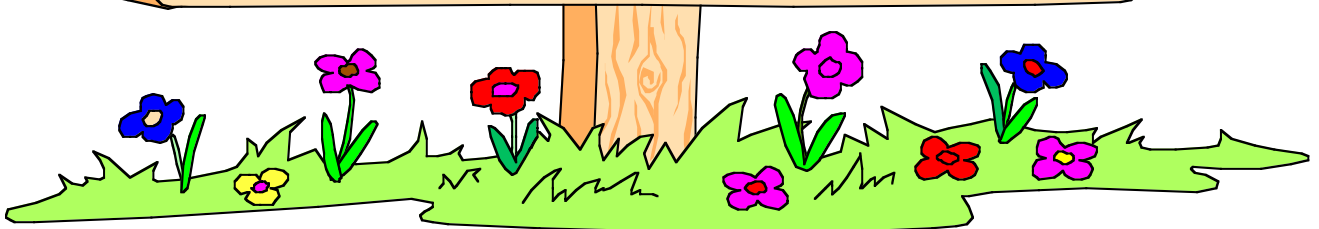


いっしょに 考えてみませんか



洞薬会（北九州地区勤務薬剤師会）
中小病院委員会からのお知らせ

- 『中小病院懇話会—より信頼される
薬剤師をめざして—』のご案内
- 第31回及び第32回中小病院懇話会に
参加される皆様へ



Vol.11

2003年2月号

●中小病院懇話会開催のお知らせ

来る、平成15年2月28日(金曜日)、および平成15年3月6日(木曜日)に、中小病院懇話会を開催いたします。

今回は、『私にもできるPOS～基礎データからSとOを記録してみよう～』をテーマに、平成15年2月28日(金曜日)は行橋商工会議所にて、平成15年3月6日(木曜日)は小倉興産KMMビルにて開催いたします。

さて、今年度の中小病院懇話会では、『発行される全ての処方箋、注射箋に関して薬歴(投薬記録・服薬指導記録)を継続して記録していくことは薬剤師の責務である』という視点から、薬剤師が患者さんに処方された医薬品を記録し管理することの意義について、皆さんと充実した意見交換を行ってきました。

その中で、『服薬指導や薬物相互作用のチェック、副作用への配慮、処方内容に関する医師との意見交換など、薬剤師が行う業務では、患者さんの薬歴を正しく把握しておくことが必要不可欠である。薬歴を管理することは、患者さんへ投与された医薬品の内容を正しく把握することにある』ということが再認識できました。そして、薬歴がその使命を十二分に果たす為には、POS(Problem Oriented System)の導入が不可欠であるとの結論が導き出されました。

そこで、本年度最後の懇話会は、薬剤師業務支援研究会(旧POS薬剤研究会)代表幹事の、医療法人精翠会吉田病院(熊本県人吉市)薬局の坂田睦先生をお迎えし、POSを導入した薬歴の記載方法について、例題をお示し頂きながら、より具体的に説明していただきます。

皆様には、資料として事前に例題をお配り致しますので、参加される前に、お配りした症例について、S:収集された情報の中から注目した患者さんの主観的な情報と、O:収集された情報の中から注目した患者さんの客観的な情報を事前に記録し、症例の患者さんの問題点を抽出して頂ければと思います。参加される皆様の記録をもとに、意見交換が行えればと思っております。

なお、講演当日には、坂田先生より、参考解答という形で、POSに必須の、SとO、問題点、目標、初期計画をお示し頂けます。また、同じ症例の経過記録例を提示して頂けます。

今回のご講演は、POSを導入する際の、第一歩として、より実践的かつ有意義な内容となっています。多くの皆様の参加をお待ちしております。



●第31回及び第32回中小病院懇話会に参加される皆様へ

今回の中小病院懇話会は、特別講演という形で、『私にもできるPOS～基礎データからSとOを記録してみよう～』というテーマで、坂田先生にご講演して頂きますが、今回の懇話会は、POSを実際の業務に導入する為に、皆様にその具体的な方法を身につけて頂くことが大きな目的です。明日の業務に直ぐさま反映させるには、開催案内と共にお配り致しました症例について、皆様が事前に検討され、この症例の問題点を抽出し、SOAP形式で記録して来て頂くことが、非常に重要となります。そして、懇話会当日、皆様より多数のご意見を提示して頂き、活発な意見交換を行うことが、目的達成の為に必要不可欠な事だと考えます。是非とも、ご自身でこの症例についてご検討され、中小病院懇話会に出席して頂き、多くのご意見を頂ければと思います。

そこで、ご存じの方も多いとは思いますが、POSおよびSOAP方式について簡単にご説明したいと思います。

記録は、読まれる事で初めてその役割を果たすと考えられます。その内容は、どの情報から、どのように考え、どのように実施するのが手に取るように理解できる内容でなければなりません。この、記録の持つ役割を十分に発揮させる為に有用な記録方法が、POSと考えられます。

POS, Problem Oriented System. 問題志向型システムと訳されます。ここでいう問題は、薬剤師の立場から明らかにした患者さんの健康上の問題点(関心点)と考えられます。坂田先生のお言葉をお借りすれば、問題を抽出する際には、今、自分が向かい合っている患者さんに、どうなって頂きたいのか、その為には私達薬剤師に何が出来るのかという視点で見つめることで、問題点は自然と導き出されます。

POSというシステムの底流には、問題解決過程があります。情報収集し、問題を明確にし、問題解決の為に計画を立案し、その計画を実施し監査するというサイクルです。この過程の途中で、問題(Problem)が明らかになり、その明らかになった問題(Problem)ごとに問題解決過程を行っていくのがPOSです。

POSでは、一番最初にプロブレムを掲げ、その後にSOAPが続きます。

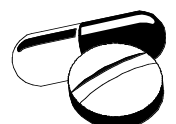
#1.プロブレム

S(Subjective) : このProblemに関して注目した患者さんの主観的な情報

O(Objective) : このProblemに関して注目した患者さんの客観的な情報

A(Assessment, Analysis) : ①情報の分析の過程 ②患者さんの目標

P(Plan) : 計画



このように記録することで、誰もが、どの情報から、どのように考え、どのように実施しようとするのかが手に取るように理解できるのです。

では、次の患者さんとのお話を、SOAP形式で記録してみましょう。そして、その記録を持って、中小病院懇話会に参加してみましょう。

皆様の多数のご参加を、委員一同、心よりお待ちしております。

症例

74才の男性です。

10年前より気管支喘息のため通院していましたが、悪化が認められ入院となりました。

入院前よりアルデシン吸入（プロピオン酸ベクロメタゾン）を1日3回、1回2吸入していました。

薬剤師：こんにちは！薬剤師の●●と申します。看護婦からお昼のお食事を残されたと聞きましたが、いかがされました？

患者：いや、口の中が痛くてね。吸入のせいで口内炎ができたと思って、あまり痛い時は吸入をしないこともあったな。

薬剤師：入院をする前から、同じ吸入を使用していますね。吸入薬の説明とか使用方法とかの説明はうけましたか？

患者：うん。説明は聞いたよ。器具を使って吸入することや吸入していると口内炎になるって、うがいをしろっていわれたな。めんどくさくってうがいはしていないよ。口内炎は吸入のせいなんだろう！

薬剤師：確かに、吸入で口内炎があらわれることがあります。ステロイド剤の吸入は、全身性の副作用は少ないとされていますが、吸入後うがいをしたりすることで、予防ができます。脱水症状をおこすことがあるので、痛くても水分や食事は、摂取するようにしてください。それから、ステロイド剤の吸入は、毎日、規則正しく使用することで、良い状態が維持する薬ですので、したりしなかつたりしないようにしてください。

口内炎は吸入であらわれることもありますが、色んな種類の口内炎もあります。主治医に先生に言いましたか？

患者：言っていないよ！なんか、先生はたよりなくて。内緒にしてくれよ。

薬剤師：治療は、患者さまも一緒に治すという気持が大切です。医師もちろん治療スタッフには正直に症状を訴えましょうね。隠したりウソを言わないでくださいね。今どういう症状かわからないと治療ができませんので。主治医の先生にはご自分で今の状態をお話してくださいね。

患者：うん、わかったよ。

薬剤師：ところで、かわいらしいパジャマですね。いつも、おみえのお孫さんが選んだのですか？

患者：そうだよ、孫のヒロコが買ってきてくれたんじゃよ。

薬剤師：よくお似合いですよ。それでは、お大事に！

編集：洞薬会中小病院委員会

九州労災病院

北九州市立総合療育センター

三菱化学黒崎事業所附属病院

佐々木病院

大和正明

井上和啓

池田美幸

佐々木洋子

北九州市立門司病院

町立芦屋中央病院

香林会香月中央病院

(前)行橋厚生病院

片山 巖

筒井浩陽

森友英治

永友英雄

本誌の内容へのご意見、ご質問は、北九州市立総合療育センター
井上和啓（☎:922-5596）までお寄せ下さい。